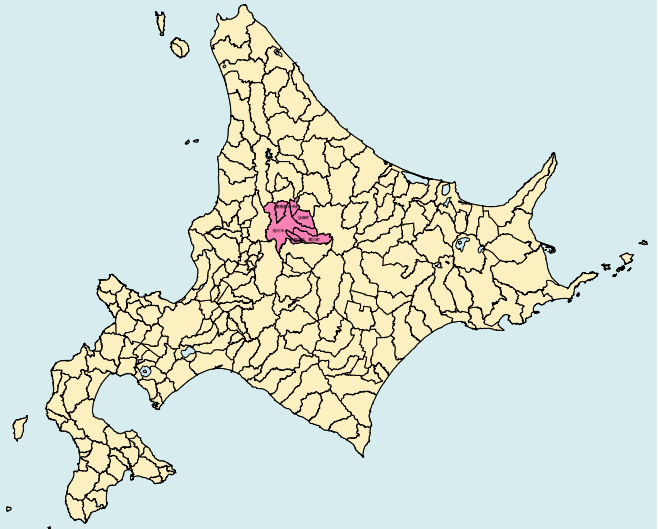


2 旭川都市圏の概要

2-1 調査対象地域

北海道の発展の核となる道北圏の拠点都市圏として、教育・文化・医療・行政等の各種都市機能の集積も高く、地理的には北海道のほぼ中央に位置していることから、交通の要衝として道内各地と結ばれ、人流・物流、及び情報の拠点としての役割を担っている旭川都市圏（旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、東川町）1市5町において調査を実施した。



【調査対象地域】

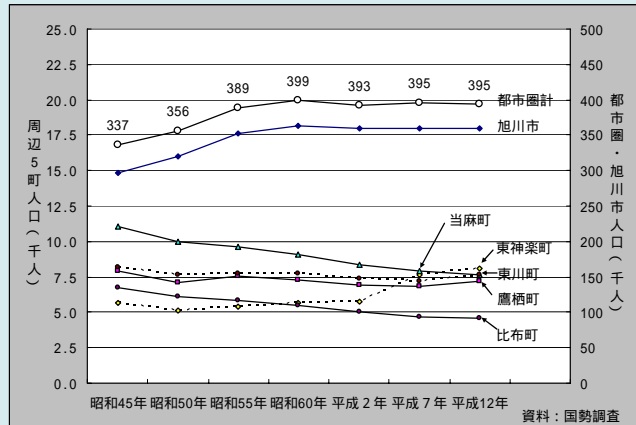


2-2 旭川都市圏の都市活動の現状

(1) 都市圏人口の推移

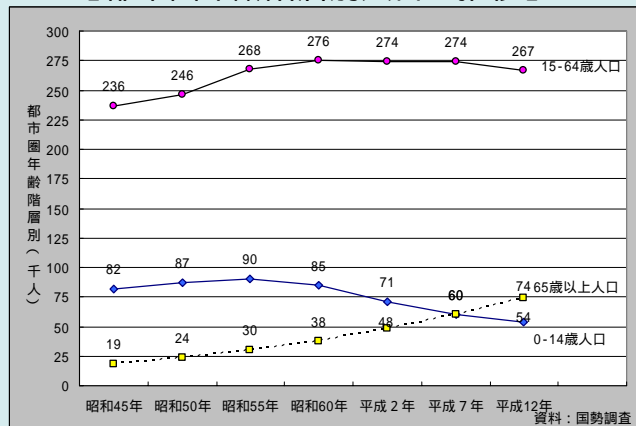
都市圏人口は横ばい
旭川都市圏の人口は昭和55年以降
横ばいで推移している。

【都市圏人口の推移】

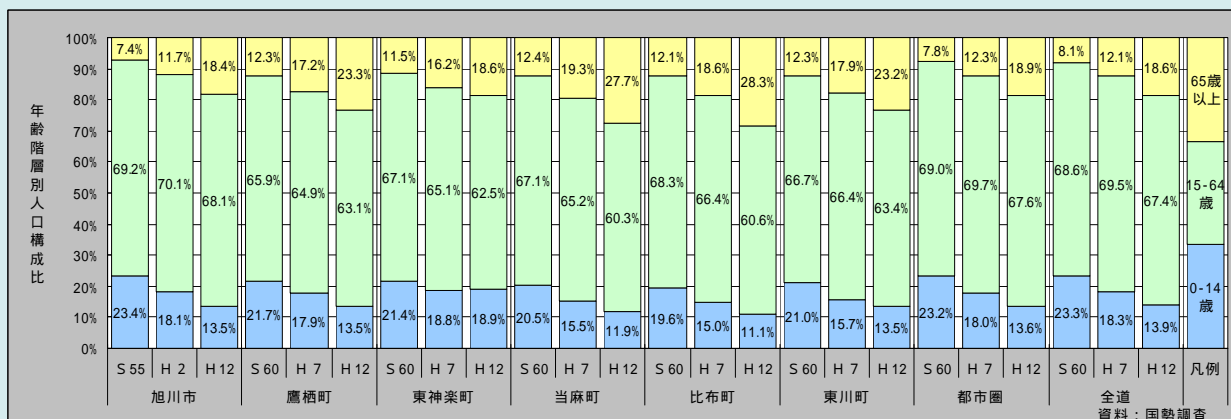


少子高齢化の進行
旭川都市圏では、少子高齢化が進行しているほか、近年は生産年齢人口も減少している。
特に周辺町では、高齢化の進行がみうけられる。

【都市圏年齢階層別人口の推移】



【都市圏年齢階層別人口構成比の推移】



(2) 都市圏交通の現状

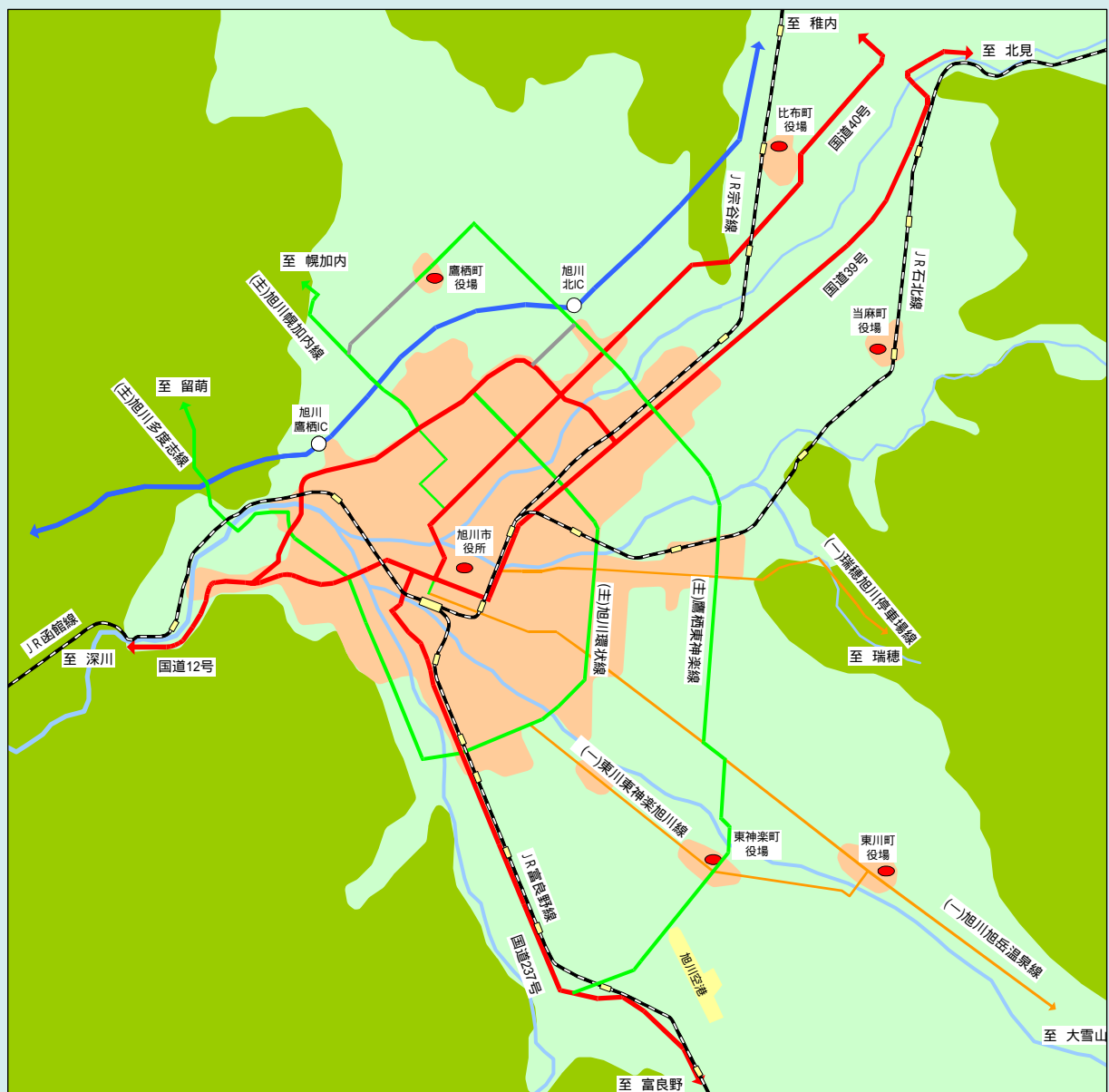
道北圏の交通の要衝である旭川都市圏

旭川都市圏を中心とし、道央方面に向けて国道12号、北海道縦貫自動車道、道北方面に国道40号、北海道縦貫自動車道、オホーツク・網走方面に国道39号、旭川紋別自動車道、日高・十勝方面に国道237号が放射状に伸びている。

旭川都市圏の道路網は、国道4路線、道道5路線の8放射系道路と道道旭川環状線、旭川新道、鷹栖東神楽線の2環状系道路が形成されている。

旭川都市圏には、空路としての旭川空港、鉄道網としてJR函館線、宗谷線、石北線、富良野線が旭川駅を中心に放射状に伸びている。

【都市圏主要交通施設配置図】

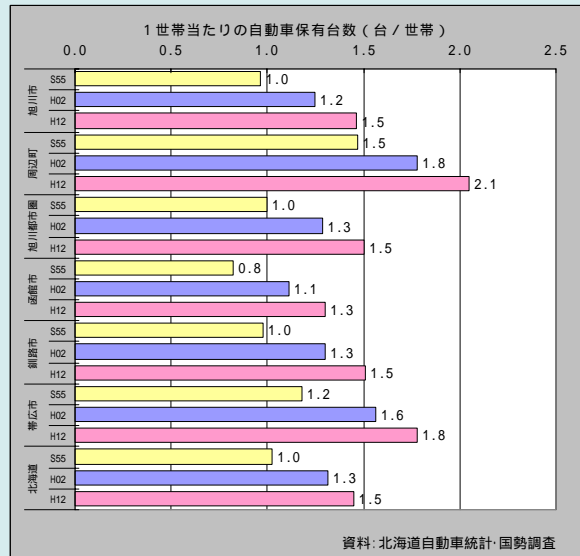
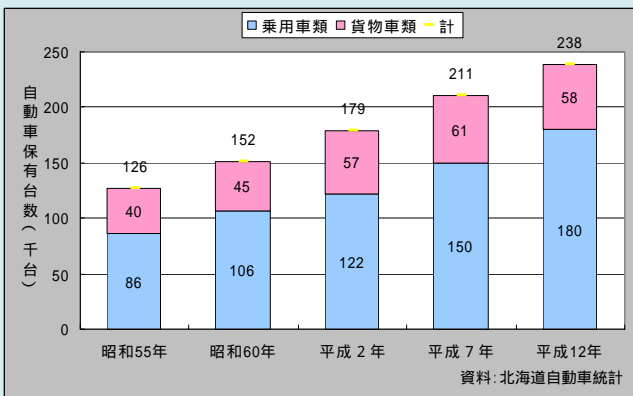


1世帯に1台以上の自動車を保有

旭川都市圏の人口の伸びは過去20年間横ばい（S55：388百人 H12：395百人）だが、自動車保有台数は平成12年で238千台となっており、昭和55年の約2倍となっている。一世帯当たり1.5台自動車を保有しており、北海道平均より若干上回っている。

【1世帯当たりの自動車保有率の推移】

【都市圏の自動車保有台数の推移】



利用者が減少し続ける公共交通

旭川のバス輸送の実態は、他都市と同様に減少傾向をたどっており、平成2年と比較しておよそ7割程度の輸送実績となっている。

【道内3市におけるバス利用人員の推移】

